

## MSU-B 留学報告書

文学部英語英米文学科 3年

萩尾 風紗

### 1. はじめに

私は中学から英語の勉強を始め、どんどんその魅力にのめりこんでいった。英語をするうちに絶対留学するぞという気持ちを持つようになり、この交換留学に応募した。また、これが私にとって初めて海外に行くということで、非常にわくわくした気持ちが大きかった。日本では難なくできることでさえ、留学先では言葉の壁や文化の違いによってうまくいかないことがあった。しかしそれによって刺激を受けることが多く、充実した9か月を過ごすことができた。

### 2. ESL プログラム

このプログラムは約三週間の語学研修プログラムである。午前中は英語や文化に関する授業を受け、午後からは街などに出かけ、アメリカの文化を直接経験するというような取り組みがメインで行われた。また、このプログラムの期間中、ホストファミリーの家に滞在し、アメリカでの生活を直接経験することができた。また、彼らは迎えに来てくれたとき、いつもその日にあったことなどを聞いてくれて、とても親切に接してくれた。また、疑問に思ったことなども丁寧にわかりやすく説明してくれた。このプログラムの最後にはイエローストーン自然公園に行った。



### 3. 授業

アメリカでは、9月から新学期が始まる。授業では、ほぼ毎日のように宿題が出るため、それをこなすのには非常に時間がかかった。前期は自分の英語力の向上を狙いとし、教養の授業を多くとった。前期の授業で一番印象に残っているのは **Public Speaking** という授業だ。これはプレゼンテーションの授業であり、人前で発表する際に気をつけることやスライドの使い方などを学んだ。この授業の最初のころ、グループ課題があったが、周りの生徒の言っていることがまったくわからず悔しくて先生の前で泣いたことを

今でも覚えている。しかし、先生も生徒も非常に優しくてがんばって乗り越えることができた。この授業で、自分の英語に自信が持てるようになったとともに、授業中に発表する勇気が持てるようになった。後期には、学校生活にもなれ、専門的な授業と、レクリエーションの授業をとった。専門科目としては言語学と社会学をとり、レクリエーションの授業ではヨガとスノーボードの授業をとった。専門科目をとったことにより、授業で使われる言葉も専門用語になり難しいと感じる反面、「英語で学ぶ」ということを体験しているとも感じた。



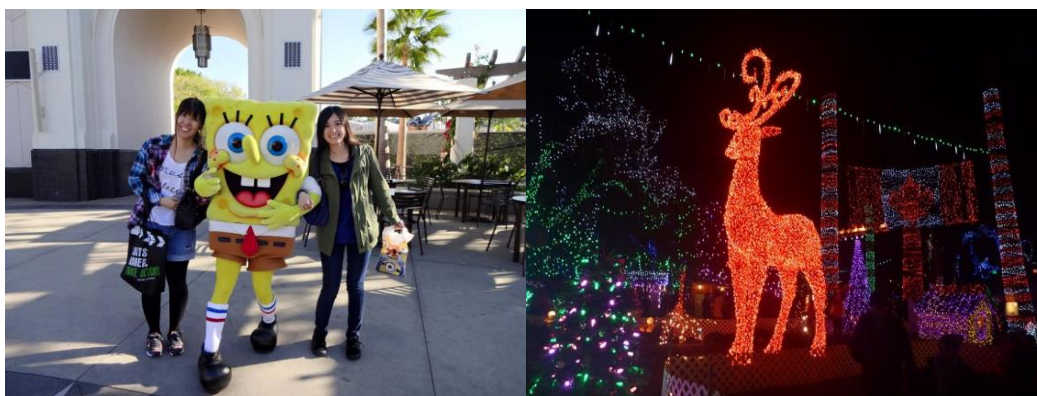
#### 4. 生活

授業があっている期間は、大学内にある寮で過ごしていた。平日は勉強に集中し、週末には友達と出かけたり、教会に行ったりした。休みの日には友達の家でホームパーティがよく開催されていたのでそれに参加していた。また、ハイキングやスキーに行くなど、外での活動も多く行われていた。学校内では留学生向けのイベントが開催されることもあった。大学内には多くの留学生が来ているため、異文化交流も行われていた。**International Food Fair** では、それぞれ出身の違う学生たちが自分の国の郷土料理を作るという取り組みが行われ、日本料理として味噌汁とから揚げを作った。



## 5. 長期休暇

Fall semester と Spring Semester の間には、約 1 か月休暇、授業があつている期間中も Thanksgiving Holiday や Spring Break などの 1 週間ぐらいの休暇がある。その期間中は、ホストファミリーや友達の家で過ごすとともに、普段はできない旅行に出かけた。私は、シアトル、バンクーバー、ロサンゼルスに旅行した。同じ国でも文化が全く異なり、楽しい時間を過ごすことができた。ディズニーランドやユニバーサルスタジオなど、テレビでしか見たことなかった場所にも行くことができた。留学期間中には、勉強も大事であるがぜひいろいろな場所へ旅行してもらいたい。



## 6. 最後に

この留学の期間、非常に充実した日々を過ごすことができた。つらいこと、楽しいこと、いろいろな経験を通して自分を成長することができた。また、留学期間中には、ホストファミリーをはじめ、多くの人に助けってもらった。彼らには感謝してもしきれないほどだ。モンタナの人たちは優しく、フレンドリーな人が多く彼らと楽しい時間を過ごすことができた。また、モンタナに行き彼らに会いたいと思っている。最後に、日本に帰国して様々な人から「前とかわった」といわれることが多かった。実際、気持ち的な面では自分に自信がもて、失敗を恐れず何事にも挑戦するという積極性が身についたと思う。わずか 9 か月ではあるが、そこで学んだことは多く、一生忘れないだろう。ぜひ機会があれば留学してもらいたい。